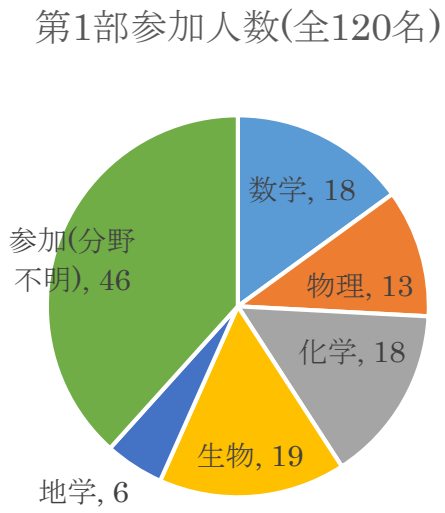
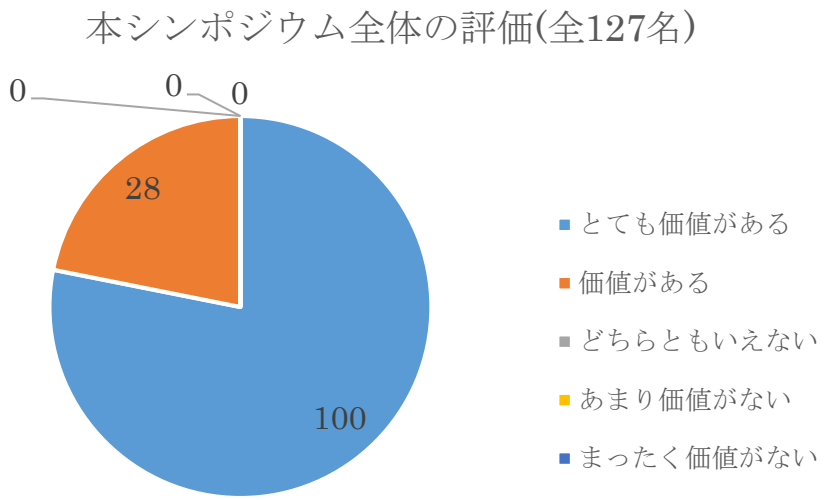
探究型学力　高大接続シンポジウム（2019 年 7 月 28 日）　参加者アンケート集約

１．今回，参加された部分（第１部からの参加者）

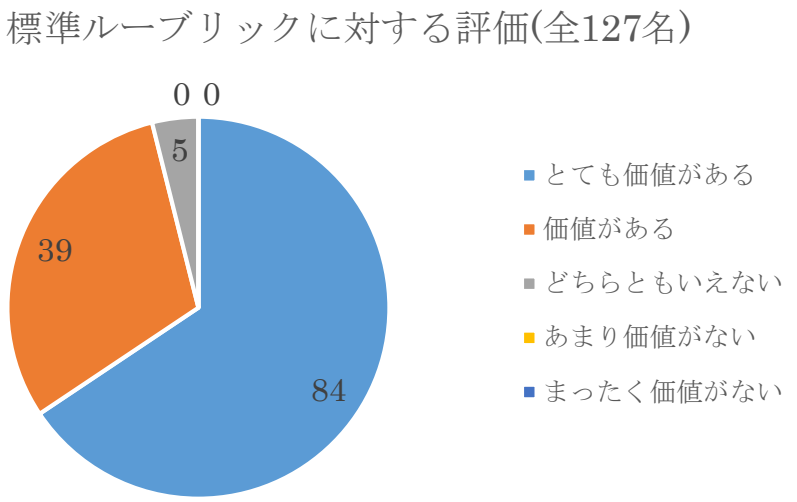
第１部での参加教科・科目



２．本シンポジウム全体に対するあなたの評価に当てはまるものに，〇をご記入ください。



３．標準ルーブリックに対するあなたの評価に当てはまるもに，〇をご記入ください。



今回ご提案している「標準ルーブリックと指導方略」について，ご参考になった点，改善すべきと思われた点について，お教えください。

◎ご参考になった点

・評価の信頼性妥当性を高める上で、標準ルーブリックは大変参考になります。特に指導方略も併せて検討されていて、実際の指導に活かせるものになっていると思います。
・教育系の学会で発表されているでしょうか？
・これまで何度かポートフォリオやルーブリックの話を聞いていきましたが、今日の話でこれまでよりも納得できる点が増えました。
・読み込み、説明等で丁寧な共通認識をはかるひつようはありますが、一般化されており、どなたでも使用可能な素晴らしいものであると感じました。
・単なるルーブリックだけではなく、対応して指導方法が記してあるのが画期的であり、実用的であると思います。
・標準ルーブリックを作ろうと８校が共同で取り組んだ流れと作成上の工夫点、注意した点など多くのことが学べた。是非参考にして生徒の活動を多面的に評価するルーブリックを作成したい。作成後の注意点も考えて活用していきたい。午後は大学の入試に関わる先生の視点を拝聴することが出ｋ知恵生徒を送り出す側も色々なことに気を付けて教育に携わりたいと思います。
・生徒の学びに関する資質・活動の捉え方・考え方が高まる
・標準ルーブリックのよさと課題の両方がわかった。
・ルーブリック作成にあたっての基本的な考え方について学ぶことができた。
・論文を用いることで指導目標や評価の観点、改善すべき点などが明確にできるということが実際に体験でき、非常に参考になりました。
・基準と徴候の違い。質的な転換点を設定すること。ルーブリックを見せ伝えているだけではいけない。(共有するような場の設定)
・ルーブリックを活用することで、生徒の実態を捉え、指導する方向性を知ることができる、ということについてよく理解できた。
・指導方略をセットにすることで単なる「評価表」に過ぎないと見えるものに道筋をつけたこと
・ルーブリックの説明方法が理解できた。生徒の成長に必要なものであることを感じた。
・ルーブリックそのものが指導の中で洗礼していくべきものであり、目標やカリキュラムあってのルーブリックであるということ。高校生が探究活動で身につけるべき力について考えることができた。(大阪・大学副学長の小林先生のコメントも今後の教育を考える重要なカギになると思った。)
・基準だけでなく、微候、指導方策が示されている
・標準ルーブリックを作る過程、どういうふうに使うかその時の注意点について勉強できたのがよかったです。使用する側の力量も必要そうだったので。
・特に数学的探究のルーブリックについて観点等非常に参考になった。指導方略については今後の探究活動の普及に多いに役立つと思う。一方でルーブリックの活用が「目的」とならないよう留意しなければならない。
・標準ルーブリックと比較することで本校のルーブリック内容と運用の特徴や改善点が明確になりました。特に運用面で具体的な内容が参考になりました。
・生徒のつまづきを校内で洗い出したいと思った。指導方略などは複数の教員で助け合いながらかつ生徒との話し合いが大事。
・指導方略が具体的に書かれており、参考に指導したい生徒とのやり取りの方法
・ほぼすべて。特に「指導方略」が述べられていた部分は教員の指導に大変役に立つと思いました。

・標準ルーブリックは１つのモデルとして各校でルーブリックを考えていけばよいと思います。
・ルーブリック作成の際に留意すべき点が資料からわかること。「標準ルーブリック」が経時的な展開とは異なる点に注意すべきというのはわかるが、よく１年生ではこのレベルまで、2 年生ではこのレベルまでという示され方をしているものを見ることがある。
・基準と徴候を分けている点・ルーブリックの基準におけるレベル間のハードルについて・指導方略込みでルーブリックを作成する点
・ルーブリックについての知識・理解が深まりました。
・基準と徴候、観点設定、指導方略など大変参考になった。
・8 校で共有されているルーブリックであり、多様な意見交換の元構成されているので、とても詳細な内容であった点。・指導の攻略ポイントが記載されている点。
・ルーブリックは使い方に気を付けないといけないということ。ルーブリックを理解するためにかなり勉強しなければならない事。
・「指導方略」が記載されており、指導の参考になる。・観点は独立ではないという姿勢・基準に対して徴候を記載することでイメージしやすい
・指導方略は非常に具体的で、即実際の指導に使えるものとなっており参考になる。
・標準ルーブリックから各校ごとの特色を加味して新たな資質・能力が伸ばせると感じた。・「指導方略」とセットになっている点が新しいと思った。・記述が非常に細かく言語化されている。
基準と徴候を明確に使い分けるという考え方
・そもそもルーブリックによる評価とはどういうことかについて十分に理解していなかったので、どういうものかというところから活用法、具体例などまた問題点まで議論されていることを知り、大変勉強になった。
・本校でも探究型学習の評価方法について検討していますが、生徒のつまずきが分析できるこのルーブリックはいろいろな先生が関わる中でわかりやすいと思いました。
・5 段階の発達段階(達成・成長)に対して我々教員側がどう支援して段階を進めるのか、という考え方がわかりやすかったです。本校でもなかなか子供たちをどういう人物にしたいかということで苦戦していますので、本当にありがたい指摘となっています。
・初めての参加でした。「ルーブリックの定義と作り方」がとても分かりやすく参考になりました。
・標準ルーブリックに具体的な指導方略が書かれており、それぞれの項目でレベルを上げる参考にしていきたい。
・数学的探究と科学的探究に分けてまとめられた観点
・何のためにルーブリックがあるのか？ということがとても考えられており、参考になった。その為の指導方略を今後も参考にさせていただこうと思います。
（ルーブリックの検証にグループワークを取り入れることの意義を感じることができました）どう使うかが重要だということを再認識しました。指導方略が示されている点が大変参考になりました。
・探求におけるルーブリックのあり方を全国の先生に発信できたのは大変意義深いことだと思います。文字の多さがルーブリックの完成度ではない。細かいことよりも「基準」が大切というのは、一周回ってここに戻った感じがあり、好きです。全国に広がればと思います。
・課題を立て、行きつ戻りつしながら課題を進めていく上での指針となるということ、生徒の成長のため、教師の指導力の向上につながるということ
・ルーブリックの作成法、グループワーク
・観点が先にあるのではなく、指導目標、身につけさせたい力があり、目標を達成するための指導・改善点を明らかにするためにルーブリックがあるという認識に立つことができた点。
・探求型学力がすべての生徒に求められるこれからの時代にあって「標準」と言えるルーブリックの作成方法について知見を得られたことは参考になりました。特につまずきを成長に変えるための方略の視点を入れることは

大変重要だと思いました。
・ルーブリックは探究活動を評価するだけでなく、事故の振り返りを通して自分の興味・将来の進路選択にも影響する点。課題解決能力も身につく可能性がある点。
・基準と徴候の違いがよく分かった。これまで混同していたことに気付きました。指導方略が書かれているのがすごいと思いました。結果を評価して終わるのではなく、面談等で途中経過を改善に向けて指導できるので是非使いたいと思います。データをいただくことはできますか。
・ルーブリックを用いて生徒のつまづきと指導方略が明らかになるように工夫している点
・「基準」と「徴候」の違いの話はとてもためになった。自分たちでルーブリックを作成するときに徴候ばかり気になってしまったので「基準」を意識したい。
・標準ルーブリックということで、学校で作成する際の参考となります。
・指導に繋げることができる点が参考になりました。初めて指導にあたられる先生にはありがたいものであると思います。
・ルーブリックを用いて研究を指導する点
・「基準」と「徴候」を明確に分けているところ。自分が作ったルーブリックが両者を混合しているために使いにくいということに気付いた。
・観点別の徴候、指導方略
・評価の基準としてはあいまいではないかと思っていたので今回の「標準ルーブリック」は非常に評価をするに値し参考になりました。
・標準ルーブリックがスタンダードなものだということがわかりました。とても納得できた。
・基準・徴候、方略の 3 視点を記述するスタイルがとても参考になった。
・自校での取り組み(評価表の作成や運用方法）と共通することが非常に多く、自信が持てた(ありがとうございました。)
・慣れるまでは大変だったと思いますが、数をこなしていけば慣れて使えて行けるかなと思います。
・実際にルーブリックの記述してみて少しイメージが具体化できたことは非常に良かった。
・「そこそこ」使えそうであるという点
・教員と生徒との情報共有、教員同士の共有・生徒のつまづきから記述・を考えていく点・次のレベルにあげるための教員の具体的な指導
徴候、方略がルーブリックの弱点を軽減できそうだと思えました。
・標準ルーブリックにおける記述語の位置づけ等、生徒に公開していくべき分の選定が重要であること。・「基準」と「徴候」の使い分けについて
「徴候」と「基準」の違い、今までにない視点でした。助言、指導が具体的に言葉(文章）で示されている。
・指導方略が入っている点がとても良く感じました。・ルーブリックの活用方法の具体的な説明が参考になりました。・こちらを参考にして本校生徒への指導に合うものを校内で話し合いを進めたいと思います。
ルーブリックに「指導方略」が付記してあること
・作成に多くの先生方が関わっている点。
・全体、標準的なルーブリックが具体的に知れた点
・大貫先生がおっしゃっていた SSH の枠にとらわれない文系含むすべての生徒の変容、成長を促す一助として考察する材料となる点。
・各レベルの指導方略が示されている。・本校のルーブリックと比較検証する指針となりうる。
「方略」が各段階に考えられているのがよかった。項目がかなり細かく、評価の材料としては豊富である。
・標準ルーブリックについて少しわかった気がしました。
・課題となる評価について研究を進めていることが素晴らしいし、参考になりました。

・理と数で分けてあるところ。方策が示されていること。基準と徴候が併設されているところ。ルーブリックが生徒のつまづきの解消になるという視点に気付けた。今後の参考にさせてください。
評価基準(規準）が言語化されており、多くの学校が参考にできる。
・ルーブリックというもの自体の理解が深まりました。「レベルとレベルを一定間隔になるように」「観点の中での軸を貫く」「観点は独立ではない」
・レベルを上げていくための指導方略がより具体的かつ実践的な内容ですぐに使えるものでした。早速参考にします。
・指導方略が参考になった。
・生徒のつまづきと指導の方略が参考になった。
・標準ルーブリックを検討、作成していく過程、具体的な方法(本校での教員研修として実施し、ルーブリックの改善に役立てたい)・ルーブリックを指導に活かしていく方法・方略（本校の課題でもあるので、参考になった）
・前の勤務校が進学校なので、本日の取り組みに深い感銘を受けました。今回の８校もかなりハイレベルな進学校であり､そのプロセスを含めて標準ルーブリックという形で表現できたことは大きな成果なのだと思いました。一方で県では 8 割の生徒がいわゆる学術研究ができる大学ではないところに就職や進学していくのが現実です。そのような生徒が在籍する高校でも探究の時間が始まっていますので、今回学んだようなプロセスをとおして先生方に生徒のためになるようなルーブリック等を作っていくのが良いのかなと考えています。
・これまで独自で進めてきたルーブリック作成及びその実践について今回は他校の先生方と話し合いながら作業できたこと。西岡先生や大貫先生のお話から具体的な考え方、留意事項がかなり理解できました。
・ルーブリックの作成の注意点・評価(ルーブリック)はレッテルを張ることではなく改善すべきポイントになること
・評価の前に、目標と育てたい能力を定めるという点が参考になりました。今までは成果物を見てから、どの程度を３にするかーのようにやっていました。今回提示いただいたルーブリックを参考に自校の探究活動に即した評価方法を模索したいと考えています。
・複数回、複数人にわたって繰り返し検証、ブラッシュアップすべきという点が新鮮でした。
・徴候の具体例や１つ上の段階に促すための問いかけ例が挙げられているので指導する際大変参考になりました。自分の学校に合わせた形にしていくために教員同士でまず話し合っていくことが大切だと感じました。
・標準ルーブリックの作成方法と実際の使用例が参考になった。テーマを一つに絞ったシンポジウムはわかりやすく、とても参考になった。
・生徒の学びや成長を射流すためにあるべきであるということ。数値的な評価のためにルーブリックを用いることがないようにすること。
指導方略として教員のアプローチまで指示していただいてているのはとても参考になります。また観点は一つ一つ別にではなく一連の流れとしてとらえることを改めて確認できました。
特に”指導方略”について本校のルーブリック表にも生かせると感じました。”指導への繋げ方”を今後は研究したい。また、観点の相互作用について本校の教員にも発信し、よりよく運用できるよう留意したい。
・「ルーブリックの観点は経時的な展開ではない」という点は改めて重要だと思いました。また、その理由(というか大前提）として「探究的な学習が１サイクルで終わるのではなく、スパイラルである」という、課題研究の実施に関することについても考えることができました。
指導への基本的な考え方を再認識することができました。また、より良い高大接続の第１歩になったとものと思いました。
・ルーブリックの作り方、評価のやり方を経験することで校内の先生方への評価についての説明ができそうだと思えました。
・レベルを上げるための教師の働きかけ、という観点に「目からウロコ」でした。口承で伝えられる(イメージの)

「匠の技」が明文化されることで、だれがいつ転任してもブレずに生徒へ働きかけられる、という点で勉強になりました。(門外漢なので筋違いのことを申し上げていたらすみません)
・基準と徴候を分けて考えている点や指導方略についても触れている点が参考になりました。
・評価方法の１つとして有力なツールとなることがわかった。
「指導方略」を蓄積していくという視点は今までになくとても素晴らしいと感じました。学校でも議論の対象にしたいと思いました。
・ルーブリックを作る前に生徒の実態把握、カリキュラムの見直しをすべきという点・ルーブリックの内容 1、質の変容を評価できる尺度 2.基準と徴候
・教員から声掛け(指導)がしやすいルーブリックだと思います。指導方略の項目は本校のルーブリックにも取り入れたいと思いました。
・グループワークで、考え方を共有できた点・指導の基準になると感じた。・ルーブリックを活用した導入例を紹介していただき、イメージをつかむことができた。
次のステップへ進むまでの方略とつまづきポイントが明示されていて、分かりやすい。課題研究の評価に使わせていただきたいと思っています。
・評価のポイントだけではなく、指導の方策もセットで考えていることがとても参考になりました。
・指導方略を知ることができて、大変参考になりました。アプローチの仕方が図式化していると忙しい教員同士でも担当の課題研究の指導をしてもらいやすくなると思いました。
・基準に対して、徴候、指導方略が示されていた。
・自分にとっての評価基準の見直し
・基準と徴候について、指導方略の確定
・そもそも、数学的研究にどのようにアプローチしていくのか、イメージがなかったのでルーブリックを見ることで探究のステップ、問いの立て方(妥当性)が想像できました。
作り方を具体的に説明していただき、参考になった。
現状、自分の勤務校では一部の教員のみ課題研究指導しているが、他の教員にも指導・役割を広げていくのに大変役立ちそうに思った。
・例文が細かに書かれているので役に立ちそうである。・基準と徴候の違いがまだ分かりにくい。(ルーブリックを使っていくうちにわかるのかもしれないが)・方略については今まであまり考えたことがなかったので参考になります。
・a.b.c.の論文を読み、評価するという手法は教員のスキルアップに有効な手法であると感じた。・先進的な研究開発を実施している堀川高校の取り組みと知り、大変勉強になった。
あるレベルから、次のレベルに挙げるための教師の支援、指導の方法が、ルーブリックの中でわかること
本校でもルーブリックを作成しているが、標準ルーブリックは、非常に縛られているものと感じました。
どう失敗したのか、しているかを評価するという小林先生のご指摘はとても重要な指摘であるように思いました。
私自身はルーブリックに〇違的な立場でいたのでルーブリックでイノベーション人間は作れない。無茶者？から生まれるというご指摘も斬新であり参考になりました。
・指導方略が掲載されている点は大変参考になりました。・実験そのものでどれだけ手足を動かしているかを評価の観点に全く加えていないのは、なるほどそういう考えもあるのかと新鮮でした。(とはいえ、手足を使って大量のデータを取った研究は、個人的にはそれだけで高く評価したいと思いもあります。)

◎改善すべきと思われた点

・改善というものでもないのですが、じっくり読むと大変分かりやすく使いやすい物へと変化しているように感

じますが、同時に「遊び」の部分がなくなりややしばりが強くなっているようにも思います。評価のズレをなくすためにはこれが適切なのかなとも思います。いつも色々と考えることがあり、大変参考にさせていただきています。ありがとうございます。
・体倒をできるだけ多く紹介いただけたらわかりやすい。
・「評価」という言葉の意味に振り回されて、ルーブリックが指導に資するものである、ということが伝わらず誤解を生むため、「評価」という言葉をルーブリックを語る文脈であまり使わない方がよいのではないか。
・（高校の理科を中心とする課題研究から、標準ルーブリックが生み出された経緯を踏まえると仕方がないところではあるが、）人文・社会科学系のテーマについての探究活動をどう評価するのか。普通科に広げられていく中で、理科・数学の専門出ない教員が理数系科目を評価する際、今のルーブリックからどのようなチェックリストなどに落とし込むか。
・学校ごとに目の前の生徒に合わせて、変更しにくいと感じてしまった。
・文系教科の教員も入っていけるグループワークがあっても良いのでは。(研究テーマが文系に近いグループもあってもいい。難しいとは思いますが。)
・「改善すべき」ではないのですが、この標準ルーブリックを文系の研究に活かすとしたらどのようになるのかが気になったし、自分でも考えてみたいと思いました。
課題研究の評価はルーブリックが万能であるということではない事
・今後に向けて質問もしましたが、社会系探究のルーブリック、大学研究と高校生、探究の関係
・大阪大学の先生がおっしゃっていた、イノベーションとルーブリックの関係を考えることがとても意義があると感じました。
・文系理系共通して考えられるルーブリックはできないか(数学、理科でもわかれている。)
・標準ルーブリックはかなりレベルが高い内容となっている。今後 SSH 以外でも実施するにはより一般化されたものが必要になるのではと感じた。(レベルの高いものを要求されると）生徒・教員も簡単に成果が出しやすいものにシフトする恐れがあるのではと感じた。このシンポでは注意事項として十分に伝えていましたがルーブリックが独り歩きすると怖いように感じます。大貫先生も同じことを言っていました。
・全国に広めていくためにが探究のみならず教材として生徒が主体的に動くようなルーブリックを考えていく必要があるのだろうかと思った。
人文・社会科学の探究型学習にも応用できるのか、それが盛り込まれてていいなと思いました。
大貫先生のお話にもありましたが、文学(人文系、社会科学系）と理系共通のルーブリックではどういうものになるのかなど、まだまだ分析していくべき課題はあるそうです。
・「基準と徴候」がやや難しかったです。勉強して理解を深めたい。・第１部と第２部で重複部分が休憩前多かったかと思いました。
・目指す方向、全体のカリキュラム、人材育成の考え方、何を前提条件とするか(前提条件をそろえるのか)
・ルーブリック自体の評価をどうするのかということを精密化され過ぎない方がよいという意見は心に刺さりました。
・ルーブリックが経時的ではないというところに難しさを感じました。全くイメージがまだ湧いていませんが、持ち帰って考えてみたいと思います。
・ルーブリックが独り歩きしないように伝えていくことがうまくできているか。
・大学の先生が言われたように画的で良いのか疑問を持ちました。また汎用性を保てるのか、難しすぎて先生方に受け入れられるのか(大貫先生が後半言われたところなど）を考えていました。
評価をする教員によって同じルーブリックを使っても評価が変わることがあるのでは。(教員の探究活動指導経験)
・科学的探究力に表現力を含めても良いのではないかと感じた。【根拠】活動や考えに形を変え、他者に様々な意見をもらう(又は他者の課題解決のキッカケになる）このようなプロセスは(科学的かどうかは別として）探究力

の一部であると考えるからです。
・新学習指導要領の「学びに向かう力」を観点に含めていく必要があるのでしょうか・・・
・8 校の偏差値の偏差が小さいことでの生徒層に依存したものになっていると思いました。標準、スタンダードというには対応の幅が限られているかなと思います。
・細かいところまで読み込めていません。学校に持ち帰って参考にさせていただきます。
・「評価の基準」としては複雑すぎでないか。・「指導改善に役立てる観点」ならこれでもありか
観点がこれで良いといえるのか、裏付けする資料が不十分であると感じた。
ルーブリックのデメリット(失敗談）にもスポットを当ててほしい
・文系の教職員がどの程度このプログラムに参画しているのかが疑問が残る点(分離分断を避けたいと考えているので)
・改善ではないのですが、最後の公表のところで「ルーブリック自体の評価は？」という問いかけに「ハッ」と思わされました。教育の質の向上という観点で。このルーブリックにはまらない生徒の評価も大切と感じています。
・特に数学的探究の方で、5 段階に分けるのはかなり無理なのではないか。読んでも 3 と 4,4 と 5 の違いを判定しにくい。3 段階でも良いのでは。「5 段階」という数にこだわる理由が何かあるのか。
・まだ改善すべき点に発想がついていっていないのが現状です。
A3 版だと文字も多く情報量も多い→実用するとなるとあまり好意的に受け入れてもらえない恐れがある。(読んでもらえない)
・学校にもよるが特に数学では、5,4 の基準を満たすのは相当に難しい。
作成したルーブリックが「良い」「良くない」をどう判断するのかが課題であるとのお話にとても共感しました。
・主体性・協調性・タスク管理能力・発信力(プレゼン能力)など、すべての教科に共通するような能力をもとにルーブリックを作りたいと思います。
・数学の論文の評価分けについて、他のグループの意見を聞きたいと思いました。
週 1 で探究を行う予定ですが、このいただいたルーブリックの徴候を満たせるようになるまで時間がかかると感じました。ルーブリックの改善というより、自分たちの授業改善が必要だと感じました。
・数学的探究に関する標準ルーブリックについては非常に難しく観点そして基準徴候とも記述語等の具体性も必要かなと思われます。
・ボリュームが大きすぎるので全体を理解するのが大変
・大学が求める力を計っているとは必ずしも言えない点。阪大小林先生のお話から。
・非常に細かく作られている分、学校の実態に合わせて柔軟に運用するとき少し難しそうに思いました。
・私は ICE ルーブリックを採用しているため、参考になることばかりでした。
・ルーブリックのワークショップで、理科、数学の分野に限定してしまっていたので、多様な分野からの論文でワークショップをしてほしい。課題研究の指導が全校で行っている場合、理科の教員以外も指導にあたることもある。研究も理科数学に限らないことが多いです。
・スタンダードが必要か
・ただ数学のテーマ設定はなかなか難しく、内容によっては先行研究を読み解くだけでも 1 年かかる可能性もあり、高校の教員がどのくらい効果的な指導に関われるのか疑問が残る。(つまりルーブリックにあてはめられないケースも多くありそう、と思いました。)
・実際現場に理解してもらえるような工夫について情報を共有したい。ルーブリックについての校内勉強会等。
・文系の研究にどう応用するか、知りたい、考えたい。
・これだけ細かいと関わる教員も増えそうで、教員が増えるとなかなか前に進めないので扱いが難しそう。・コンパクトなものもあればよいです。（日常的に使えるような）

・高大接続は難しい課題であると再認識した。大学が入学は安しく卒業が難しい形に変わらなければ難しい面もあるのでは。・大学がどのくらいルーブリックを使いそのメリット・デメリットを知りたかった。
・数学において独創性が高く評価されるべき点は確かにその通りだとは思います。一方、例えば泥臭い不等式評価をひたすら行うような研究は「証明」において評価 5 を得るべきではないと考えますか？・math-a(計算機によるシミュレーション)math-b はこのルーブリックで評価できますか？・生物や地学のフィールド研究の様な質的側面の大きな調査、「情報の評価」徴候はどうなりそうですか？

◎その他，ご意見・ご感想・ご質問など，ご自由にご記入ください。

・初めて参加させていただきました。論文をもとにルーブリック作成のワークショップを体験し、自校でのルーブリック作成の参考になりました。ありがとうございました。
・中等教育における研究倫理について、考えていかないといけないのでは？(昨年 8 月サイエンスに日本は科学論文の捏造大国である。論文捏回数ランキングワースト 10 の半分は日本人）中等教育における研究倫理教材(基礎編）が公正研究推進協会 HP に(今実践編を作っています）無料で使えるものが公開されています。
・パットその場で渡す必要のある場面に於いて(評価項目を）来場された方等の”点”の視点の活用方法を検討しているのですが、納得しうる着地点が見えづらいというのが現状です。初めて参加させていただき大変勉強になりました。私だけでなく、学年主任や管理機関の担当者にもぜひ参加してもらいたいと感じました。どうもありがとうございました。
・ルーブリック評価は、日本の学校現場以外でどのように使われているのでしょうか。ハイステークな選抜で使われている例はあるのでしょうか。印象としてはルーブリックは生徒へのフィードバック、育成、コミュニケーションにとても有効なツールだと思いますがある程度公営公正性が求められる入試には適さないような気がします。評価が人によってぶれることや、間に高校教員の主観が入るという意味でも難しいように思います。
・標準ルーブリックに加えて探究活動に関わるさまざまなことを考える良い機会となりました。お世話になりました。
・単に入試のための資料だけでなく学びの円滑な接続に貢献できると思う。
論文の事例を踏まえたグループワークをする中で、形勢的評価と総括的評価を区別するという話はすごく納得しました。論文だけでなく、実験ノートも含めた事例を踏まえたグループワークにもぜひ参加したいと思いました。
・8 校の先生方が熱心に研究を進められておられることに敬意を表したいと思います。このような会でその成果や課題を共有していただき大変勉強になりました。
・具体的事例を含めた説明を多く聞くことができ、グループワークで体験することもでき、大変勉強になりました。今日の内容を学校でも共有し、今後の取り組みに活かしたいと思います。ありがとうございました。
・忙しい中でのご準備頭が下がる思いです。このような場を設定いただきご案内いただけたことに感謝申し上げます。
・つい先日学校方針全体とルーブリック化したところを訪問し、教えを乞うたところでした。探究活動全てを包括的に扱おうという構想のスケールの大きさに心動かされました。
・「標準ルーブリックと指導方略」とても素晴らしいご研究取り組みであると、大変感銘を受けました。他方、入試に関連付けると、標準化普遍化が必須となるだけに、全国の(すべての）高校で実践していくのか、など課題があるのかなと思いました。
・とても勉強になりました。スライドのデータを送ってほしい(配信してほしい。特に大貫先生のスライドが欲しいです。）質問。徴候をすべて満たしていても標準に到達するとは限らないというのがあまり理解できません。徴候を満たしていれば基準に達していると思うのですが。
・SSH のみならず「総合的な探究の時間」が全体的に広がる中で、今後の課題だと思う。それこそ文科省のすす

める教科横断的な探究活動に対してルーブリック「標準化」を図ることは可能なのか。
探究型学力というかは課題研究によってのみつけるものなのでしょうか？普段の授業の中でつけていく工夫が必要だと思っています。課題研究が難しいと考えられている学校の生徒にはどのように力をつけていくかどのように評価するか、この標準ルーブリックをどう活用できるか考えていかないと全体に広がっていけばよいと考えています。
・この標準ルーブリックを使用するとしたときに、その意図、目標をどうやったら生徒に上手く伝えられるかについて考えています。生徒におろす際にはもう少しかみ砕いた形でおろすことになるのかなと思いました。今まで感覚的に生徒に対して指導していたのですが、このシンポジウムの他校の実践例をお聞きして理論的な裏付けの様なものが得られたように思います。今後の指導に活かしていけそうです。ありがとうございました。
・飯澤氏の発表の中で探究過程とルーブリック段階との対比が書かれておりわかり易かった。探究過程とルーブリック評価を並列した資料は、その生徒の質的な転換点を捉える(=可視化する）ツールとして非常有効だと思う。
・熱心な議論を目の当たりにして感激しました。ありがとうございました。
・探究≒研究なのでしょうか。本校を含め、ほとんどの理系生徒は研究者にはなりません。民間企業では開発生産者になると思います。そのような場面で必要となるのは批判的思考力やコミュニケーション力、協働力等と思います。本校では探究活動(課題研究)を通じてこれからの上位概念の力を育成したいと考えているのですが、これらをルーブリック評価できないでしょうか？
・2 部だけの参加でしたが、標準ルーブリックについてその内容や趣旨について説明してくださり、とても参考になりました。飯澤先生の事例に土江は指導を評価の一体化のとても良い例として聞かせていただきました。本当にありがとうございました。
・生徒の作品を見て、徴候や指導方略(次にどんな方向で研究を進めるべきかをアドバイスすべきかをみんなで議論・検討するともっと有意義になるのかと思いました。）を考えることは具体的でよい。課題研究で学んだことが生徒の進路にどのように生きているのかを見る必要性を感じました。
・大学の先生からの話について、ピンときた。イノベーション人材育成についてはずれた人、変な人基準的なレベルを上げるだけではダメなこと。
・本校でも使途課研でも積極的に実践してみて、機会があればその結果を情報交換できればいいなと思いました。どうもありがとうございました。
・大学側からのルーブリックに対する応答が聞きたくて今回参加した。現在重点枠(高大接続枠）の参画校としてルーブリックの作成に関わっている。これがコンソーシアムを組んでいる大学と議論していくところである。
・SSH 事業の評価をする時、「教員の変容」という観点でも評価しているが「課題研究における生徒への評価」がよりよくなることで、変容があったと判断することもできると思いました。活用させていただきたいです。・第 2 部においてご講演が資料にないスライドを多く含んでおり、客席での撮影が頻繁に行われ、シャッター音が気になった。資料にないスライドにも重要なことが書かれていたためそれらも是非資料に載せていただきたかったです。
・堀川高校での探究学習の流れ、SSH 当初からのカリキュラムなどの変遷などが知りたかったです。
・8 校の先進的な取り組みは大変参考になります。今後ともよろしくお願いします。
・質問です。本校でもロードマップ→ルーブリックという作成の流れをたどっていますが、ルーブリックがカリキュラム評価なのか、生徒個人の成長を評価するのかが定めにくい（同じルーブリックがではできない？）と感じています。特に成績に反映する場合、前に示す二者のどちらかの問題が大きいのかによって変わる印象です。(担当教員に依存、というか）この辺りについて実践例を教えてほしいです。
・数学の課題研究について、数学の仲間と広く交流できたことが非常に楽しく、有意義な時間になりました。数学で問題になったのは、数学自体を研究するのか、州額を道具にして数学以外の科学現場を解明するのか。数学だけの純粋な研究については例え数学の能力の高い生徒であっても評価しにくいと意見が一致ししました。グル

ープ研究よりも個人研究の方がやりやすいという意見も出ました。
・最後の小林先生のお話が最も納得できました。どういう生徒を育てるかをはっきりさせることがまず大切。何を(どういうこと）を経験させるか、そのためにどう指導するかということを考える。
・評価をすることに対して、負担に感じている先生方も多い中で、どのくらいの頻度で評価を行っているのか気になりました。・行動観察や振り返りをどのように評価しているのかも気になりました。大変参考になりました。ありがとうございました。
・準備から当日まで大変お世話になりありがとうございました。運営に関してお手伝いができず申し訳ございません。今回のシンポジウム大成功だったのではないかと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
・ルーブリック作成のノウハウや見方などを体験的に学べる非常に良い機会でした。他校の取り組み内容も様々聞けて事例を集めるにも良い会でした。高大接続シンポなのでもう少し大学の運営の先生方と意見を交わしたかったです。
・初めて参加しましたが、関西の学校の元気の良さや熱を感じました。本校に持ち帰り少しでも多くのことを生かしていきたいです。ありがとうございました。今回自分のグループの考え方しか共有できませんでしたが、他のグループがどう論文を評価したのかを知りたいです。
・大学の先生から貴重なお話が聞けました。私も大いに納得することがあります(高校における課題研究の意義、規則性を求めない）全国各地の大学へ送り出す例として、是非大学からの提言をまとめて発信してほしいです。
・私(世界史）にとっても、意義深い研究会となりました。今後とも研究を深めていきたいと思います。
・ルーブリックが多くの人、時間、手間をかけて作られていて驚きました。今行っている課題研究に取り入れていきたいと思いました。ありがとうございました。
・大変参考になりました。今後高大等様々な方々と議論していければと考えています。
・全国の先生方が困りながらも、前向きに課題研究に取り組まれていることを知り、このような場を設定していただけたことに感謝しました。
・入試と切り離して、探求の意義、学ぶ楽しさをまず小中高の先生が話すのがいいかもしれませんね。何のために学ぶのか、でもいいのかもしれないです。
・ありがとうございました。大変勉強になりました。
・お世話になりました。ありがとうございました。
・大掛かりなシンポジウムで準備等大変だったと思いますがありがとうございました。おかげでこれからの生徒の探究活動に対する新たな視点を得られたような気がします。
・大変勉強になりました。ありがとうございました。
・課題研究の指導において生徒に課題を与え、課題解決の方法を学ばせるのがよいのではないかという意見が校内で常に議論になります。今回の内容で少し方向性が見えた気がします。いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。
・具体的な指導や実践はとても勉強になります。・現場での先生方の動きや指導方法を知ることで、自分の指導の参考になります。・大阪大学の入試指導についてのお話は興味深いものです。高校でも入試がマークシートになるべきかの議論があります。どのようにお考えか聞きたいです。
・最後の質疑に出てきたように高校での「探究」を高等教育への足掛かりとして大学での低学年教育のようにしていくのか、高校の学習でそれは必要なのか、私も疑問に思いましたし、この疑問を広く議論せずに中等教育の探究目指すところは見えてこないと思います。
・ありがとうございました。
・学校に持ち帰り、反映していきたいと思いました。ありがとうございました。
・SSH 指定校 1 年目でとても参考になりました。ありがとうございました。
・調査、評価、理論の 3 つの質問の説明が非常に役に立ちました。・探究プロセスの非直線性を表現する参考にな

ったからです。・本校のルーブリックと標準ルーブリックを比較し改善がいると感じるならすぐに実行に移せるので気持ちが前向きになりやる気がでました。・ルーブリックの活用例にもあった検討会は実施しようと強く感じました。
・本校では課題研究のテーマが多岐にわたっており（国社数理英体美音、計 15 講座）共通の評価基準を確立することができずにいます。標準ルーブリックにも科学的探究と数学的探究の 2 バージョンがあるようですが、どういった議論を経て 2 つのバージョンを成立させてきたか、教えていただきたいです。(その必要性をどう考えたか、記述分が異なるが、評価の公平性とのバランスをどう考えたかなど)
・ルーブリックを使いながらそれでもルーブリックに依存し過ぎずにということが大事だと思いました。
・ルーブリックとチェックリストの使い分けを知ることができ良かった。・文系にも対応できるものがよい。
・実際他校他県の先生と情報交換できた点がよい経験でした。そのような観点を言うともう少しワークショップが多くても良かったかもしれません。
・小中学校などの学力差の大きな場に対応できる、生徒の探究心にも対応できるようなものを開発していただけると有難いです。
・午前の部で 3 人程度でワークショップをやった。付箋+プリントを代表的な例としてスライド等でリアルタイムで見せるシステムがあるといいなと思いました。
・SSH 新規校で、課題研究もまだ思考錯誤中、評価の仕方もこれからという状況でこの研修会はとても参考になりました。全教員で課題研究活動に楽しんで取り組める職場づくりが主担当としての自分の「課題研究」です。今日はありがとうございました。
・指導方略はとても参考になる。
・大変参考になりました。ありがとうございました。このような研究会や他校との交流の機会がありましたら、また是非参加させていただきたいと思います。
・いずれにしても、ルーブリックの作成段階から携わらないと、頭に入りそうにない。ただ、自校のルーブリック作成時に大きな参考になると思う。そういう意味で「基準」か。
・ルーブリックは作ったことがないと、やる価値がなかなか分かってもらえないと思います。全国でどのように取り組むべきなのか、まだ議論の必要があると感じます。
・探究活動がどう授業改善に活かされているのかの事例はありますか？
各大学、各学校で目標が違うので標準ルーブリックを参考に各校に応じたものにしていく必要があると改めて思いました。1 校で作成しているのはかなり難しく数校が協力して作り上げていくのがよいかと思いましたが、8 校と京大の様な、目標、カリキュラムが似ているような学校同士が集まってルーブリック作成に取り組む機会をどう確保したらよいか課題だと思いました。
・今回は見学で入れていただいたグループで評価以外の話し合いなどに参加でき、大変参考になった。今度文理融合がより重要視されると考えているので、私の様な文系の教員にも取り組めるプログラムなどがあると嬉しいです。(見学のみは少々さみしいので)
・ルーブリックを作るためのグループワークを体験してみて、作ることが目的になってはいけないことを痛感しました。・今日のシンポジウムを職場に持ち帰って共有したいと思います。・本校との違いをしっかり検証してみたいと思います。
・1 日ありがとうございました。
・他の学校の様子がよく分かった。本校のルーブリックがまずまずまともだと思えてきた。理系の先生方の意見が聞けた点がよかった。飯澤先生の指導辞令が大変興味深かった。(面白い）先生のつまづきに対する方策を指導者でどう共有して向上していけるのでしょうか？(探究活動の指導法は悩みです)
・指導と評価の一体が大変だと再認識しました。ルーブリックを作ること自体が目的とならないように留意しながら社会に貢献できる人材の育成に向けた教育環境の創造、実施に努めてまいります。圧倒的な本気度を持って

課題に粘り強く向き合いやり抜く生徒を育て支えられたらと思います。
・ルーブリックについて、全く知識がない中で参加したので、大変勉強になる１日でした。・大学の先生方が高校生に求める人間像(学力像?)のお話について高校生を指導する立場として身の引き締まる思いでした。
・課題研究では成果物が評価の対象として大きいと思っていたが、小林先生の AO,推薦入試入学者の博士課程進学の話もあり、ルーブリックを使って研究課程を評価することの大切さを再確認した。
・ワークショップに参加させていただいたのが大変良かった。校内でもルーブリック改善のための意見を募っているが、あまりフィードバックがない。指導への活用も不十分であった。その両方を一度に解決できるヒントを得られた。
・徴候と基準について、例示されたものについては違いが分かるのですが、実際に記述語を書こうとすると違いが分からなくなります。今日は大変勉強になりました。是非東北地方でもこのような勉強会ができればと考えています。
・今回のような機会を不規則でも構いませんので是非作っていただきたく要望いたします。今回貴重な機会を作っていただき本当にありがとうございました。
・今年度から「探究」に関わらせていただきことになりました。探究について熱心かつ高レベルで運営されている話を聞くことができとても勉強になりました。また参加したいと思っております。
指導方略が分かりやすくとても参考になりました。自分の学校の生徒のレベルに合わせて考え直していきたいと思います。また、私の担当が情報なので情報に関するケースも一緒に話し合いたかったです。
探求型能力の育成はこれからの社会を担う生徒を育てるにあたり 1 つ大きく重要なテーマであると考えています。主担当となり１年目ではありますが、県内ではなく（ほぼ）全国規模といっても良いような今回の会に参加できたことはとても意味のあることだったと思います。ありがとうございました。本校は SSH ではないのですが、課題研究の拡大を図っています。今回の研修で得たものを自校にあてはめ、まずは生きた本校のルーブリックを見直していきたいと思います。最終の質疑応答で是非と思っていましたが、飛行機の時間で途中退出となってしまいました。裏面に数点質問をまとめさせていただきました。他のご校務もあり大変お忙しい中恐縮ですがお時間のある時に簡単で構いませんのでご返答いただければと思います。
・ありがとうございました。
・私たちの学校でも生徒の探究活動をどのように客観性を持った評価をしていくかをスタート地点にルーブリックの研究が始まりました。まだまだ不十分であることが今回のシンポジウムに参加して実感できました。今回得た情報を再度見つめなおして、学校での指導や職員研修に活かしていきたいと思いました。本日はありがとうございました。
・企画・準備・運営等大変な労力だったと思われます。本当にありがとうございました。
入試制度において”ひも付き入試(何かの企画や発表会への参加を要件とする)”についてのご意見等あれば伺いたいです。参加意欲を実績として評価していくことへの賛否なんかを聞ければと思います。また、大学生徒の成果発表会などが増えたらと感じています。(発表会の確保と人材の発掘的な意味から)
e ポートフォリオに上手く組み込めないかと考えました。(先日ある大学の説明会でも「統一化が図れないと使えない！」と明言されていました。)
・シンポジウムの計画準備等本当にありがとうございました。同県内からの参加の方々からもとても有意義であるとの感想をいただいています。ありがとうございました。
このシンポジウムに参加できてとても参考になりました。本校の他の先生にも参加してほしいと思える内容でした。
・国語を(国語で）教えることで「研究することを厭れていない人」「課題と向き合和える人」をどう育成するかというのが現状に私の大きな課題です…がもう少しハードルを下げて１歩ずつ「生徒との向き合い方」を考えていきたいです。今日は本当にありがとうございました。

生徒の成長過程と指導の在り方の紹介がイメージしやすく生徒を指導する上での大切なポイントがよくわかりました。
・標準ルーブリックの実効性について使い心地はどうでしょう？教員の負担は大きくならないでしょうか?
・「標準ルーブリック」の作成までの先生方のご苦労、お察しします。上にも書き方などを自校でも参考にさせていただきたいと思います。実は課題研究に対する評価法において、本当にルーブリックがより良いものなのかという疑問が自校教諭の中にもあり、まさに大阪大学の小林先生がおっしゃった様な議論もありました。評価も含め課題研究の難しさを改めて感じました。
・大学入学者選抜に使えるルーブリックはボトムアップでは難しいかもしれません。西岡先生がおっしゃるように国大協あたりで信頼できるものが用意されると良いのかもしれません.(IE のディプロマのスコア認定のような)
・多方面の先生方のお話を聞くことができて視野が広がりました。大貫先生の話のスライドがすべてほしかったです。
・本日はありがとうございました。
・第１部で昼食後の講義(「ワークをふまえての注意点」大貫先生）のパワポの完全版のデータをご提供いただけませんでしょうか?
・☆指導方略で生徒を見守るのはどの程度、いつぐらいまでかなかなか見定めるのが難しいと思いました。☆成果を求められるところで、プロセスも評価できる仕組みは重要だと思いました。こうしたプロセスも成果として発信していくことを大切にしていきたいです。(成果は論文に限定されると、3 年間では、本当に偶然に左右されることが多いのを実感しています。)
ルーブリックはできたものよりつくるプロセスが大切だという話があったが、とすると「基準ルーブリック」という。完成したものを提供することにどれだけ効果があるのか疑問に思った。つくる方法とその活用法という観点を共有したほうが良いのではないだろうか。
・SSH とそれ以外の学校で不公平が生じていることについて不満
・ワークショップの際、見学参加者にも事前にモデル論文を送っておいていただけると良かった。
・ワークでしていた記述語の部分がまとめられず結局モヤモヤしたものが残り自分の中で少し混乱しています。・オリジナルなルーブリックを作ることは難しそうですね。・グループ研究をしている場合、ルーブリックの使い方が難しそう。
・評価を求めているはあくまで文科省であり、その評価を生徒が求めているかは疑問である。今日のシンポジウムの中で評価を受ける生徒がどのような反応をし、どのように変化していっているのかを知りたかった。さらに言えば生徒、社会が求めていない点にあまり時間と労力を書け過ぎると本来すべき教員の役割が果たせなくなるのではと感じた。全体を通し大変参考になりました？ありがとうございました。
やはり大学の先生の意見が面白いと思う。
・課題研究を初めて担当することになり、勉強するために参加しました。
・第一部グループワークに際し、多様な意見が聞きたかったので、同一学校の先生は別のグループに分かれるように指示いただければより良かったと思いました。(3 人グループで残りの 2 方が同一校というのはやや辛かったです)[質問]船橋港の先生の質問の前半について、「結果が出るか否か」については 8 校の先生方、あるいは大学の先生にどの程度重視されるか伺いたいです。小池先生のスライドにあるように容易に結果が出る研究テーマに流れてほしくないという思いは持っています。一方で、標準ルーブリックにあるように「環境的な制約等を念頭に」明らかに有意な結果が何も得られなさそうな研究計画に対しては我々は指導するはずです。その折り合いをどうつけるべきでしょうか。また、大学はどの程度現実的な計画を立てるかを求めていますか。